

# 子どもたちがともに学び合い，一人一人が輝く授業の創造 ～外国語活動，外国語科における「主体的・対話的で深い学び」を促す手立てを通して～

いちき串木野市立串木野小学校

## 1 研究のねらい

外国語の学習や外国語によるコミュニケーションに興味をもち，対話的に学びながら，他国の文化や言語について深い学びを実現できる児童の育成

## 2 研究の全体像及び仮説

本研究でめざす子どもの姿			
	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
全体像	外国語の学習や外国語によるコミュニケーションに興味・関心をもち，学習の見通しをもち，振り返りながら進んで学習に取り組む子ども	他者を尊重して情報や考えなどを伝え合い，自らの考えを広げたり深めたりする子ども	言語やその背景にある文化に対する理解を深め，他者に配慮しながらコミュニケーションを図ろうとする子ども
研究の仮説	<b>I 主体的な学びを促すために</b> ○基本的な学習過程に基づく授業実践 ○歌やチャンツの活用 ○学習課題提示（導入）の工夫 ○スキットや Small Talk 活用 ○アンケート結果の活用	<b>II 対話的な学びを促すために</b> ○目的や場面，状況等設定 ○5つのコミュニケーションのポイントの活用 ○ワークシートの工夫 ○ICTの効果的な活用 ○学年に応じたクラスルームイングリッシュの活用	<b>III 深い学びを促すために</b> ○自己調整する時間の確保 ○振り返りカードの活用 ○他教科・他教育活動との関連 ○学習環境の工夫

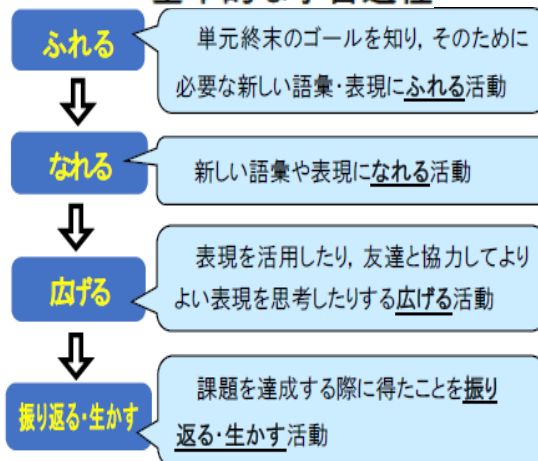
## 3 研究の実際

### 研究仮説 <主体的な学びを促す>

**基本的な学習過程を確立し**，「やってみたいな。」「楽しそう。」と思うような導入を展開すれば，子どもたちは，学習の見通しをもち，自ら学習に取り組む習慣が身に付いていくのではないだろうか。

- どの単元もどの時間も，同じように進めることができるように，また，子どもが見通しをもって学習できるように，基本的な学習過程を確立した。また，見通しをもてるように，単元計画を確認するようにした。
- 低・中・高学年それぞれに「今月の英語の歌」を決め，授業始めの挨拶の後に活用した。単元のチャンツを活用することもあった。低学年は，動画を見ながら歌う歌を，中学年以上は学習と関連のある歌を選んだ。
- 学習課題提示(導入)を工夫し，スキットやSmall talkの活用を図った。高学年は，担任の話から内容を推測し，メモを取りながら聞き，英語での表現意欲が高まった。

### 基本的な学習過程



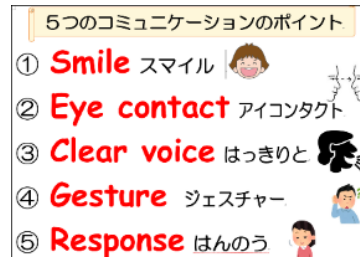
## 研究仮説Ⅱ <対話的な学びを促す>

目的や場面、状況を明確にした言語活動(自分の考えや気持ちを伝え合う活動)を計画的に実施するならば、子どもたちは、自らの考えを広げたり深めたりするのではないだろうか。

### (1) 目的や場面、状況の設定の工夫例〔言語活動の工夫〕

自分の考えや気持ちを伝え合う活動を計画的に実施するために My Story Book を用意し、完成させるというゴールを設定した。

### (2) よりよいコミュニケーションに欠かせないポイントを5つにしぼり、意識して活用できるように各学級に掲示した。Response の幅が広がるような働きかけにも取り組んだ。全教育活動で、自己表現の場では、5つのコミュニケーションのポイントを意識させた。



## 研究仮説Ⅲ <深い学びを促す>

既習内容と関連付けて知識を活用する環境を整えたり、単元を通した振り返りをしたりすれば、自分の「見方・考え方」を働かせて、相手に配慮しながらコミュニケーションを図ろうとするのではないだろうか。

### (1) スピーチやクイズなどの発表前には、ペアやグループで練習する時間を確保し、これまでの学習を生かし、より効果的に伝える方法を自己調整する時間を確保した。

### (2) 低・中・高学年用の振り返りカードを作成し、共通活用した。単元ごとに1枚あり、毎時間の自己評価に役立て、子どもの理解度を知る手立てとして活用した。また、その単元を通して成長したことを気付かせた。

### (3) 言語材料で扱う題材は、他教科等で、子どもたちが学習したことを活用した。

例:5年の Lesson8「What would you like?」では、家庭科「献立を工夫して」の五大栄養素表を示すことで、意欲的におすすめランチメニューを考えることができるようにした。

### (4) 教室内外の子どもたちがよく目にする場所に、教科書に出てくる言語材料を掲示した。4年以上の教室には、子どもたちがへボン式の名前に親しむことができるように、誕生日表を作成して掲示した。また、ALT の協力を得て、母国の文化を紹介するコーナーや、英単語しりとりなどの掲示を充実させることができた。

## 4 研究のまとめ

### (1) 歌やチャンツを取り入れることで、楽しく学習に取り組み、外国語に慣れ親しむ子どもが増えてきた。異文化理解や興味も深まり、学習した言語材料を使ってコミュニケーションをとれるようになってきた。

### (2) スキットや Small Talk を取り入れて単元終末のゴールを示すことで、目的をもって学習に取り組みせたり、学習過程の提示により、次の活動を予測し、見通しをもって学習に取り組みせたりすることができた。

### (3) 5つのコミュニケーションのポイントを他教科でも意識して活用するようになり、伝えようという意欲が高まってきた。また、振り返りカードに「子どもの意識の変容」「学習内容」等の項目を入れ、全学年書式を揃えることにより、評価にも活用することができた。

### (4) 外国語コーナーの前で話をしている児童が多く見られるようになり、日常的に気軽に英語を使う子どもが増えてきている。掲示物やデジタル教材、掲示用絵カードなど、外国語学習の環境が整備されたことにより、教師の外国語に対する意識も高まり、授業に取り組みやすくなってきた。

## 5 今後の課題

- ゲームや楽しい活動には意欲的に取り組めるが、学習内容によっては興味・関心に個人差が見られた。特に苦手意識のある子どもが、興味・関心をもつことができるような工夫をこらすことが必要である。
- クラスルームイングリッシュの活用について、教師は意識して活用しようと努めたが、忘れてしまうこともあった。もっと積極的に活用することで雰囲気を高めていきたい。
- より学習内容に応じた外国語コーナーの充実や学級通信の時間割の英語表記など、今後も外国語に親しめる環境づくりに努めていきたい。
- 深い学びに関わる研究をより深め、他の具体的な方策も探していきたい。評価についての研究も更に進めていきたい。